

インマヌエル中目黒キリスト教会

2016年5月29日聖日礼拝

使徒の働き連講(73)

「髪一筋さえ失わない」

使徒の働き27章11節-28章1節

竿代照夫牧師

聖書朗読 新約聖書

使徒の働き

27章11節～28章1節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会)を使用しています
第二版の聖書は 260 ページ
第三版の聖書は 284 ページ

- 11 しかし百人隊長は、パウロのことばよりも、航海士や船長のほうを信用した。
- 12 また、この港が冬を過ごすのに適していなかったので、大多数の者の意見は、ここを出帆して、できれば何とかして、南西と北西とに面しているクレテの港ピニクスまで行って、そこで冬を過ごしたいということになった。
- 13 おりから、穏やかな南風が吹いて来ると、人々はこの時とばかり錨を上げて、クレテの海岸に沿って航行した。

- 14 ところが、まもなくユーラクロンという暴風が陸から吹きおろして来て、
- 15 船はそれに巻き込まれ、風に逆らって進むことができないので、しかたなく吹き流されるままにした。
- 16 しかしクラウダという小さな島の陰に入ったので、ようやくのことで小舟を処置することができた。
- 17 小舟を船に引き上げ、備え綱で船体を巻いた。また、スルテスの浅瀬に乗り上げるのを恐れて、船具をはずして流れるに任せた。

18 私たちは暴風に激しく翻弄されていたので、翌日、人々は積荷を捨て始め、

19 三日目には、自分の手で船具までも投げ捨てた。

20 太陽も星も見えない日が幾日も続き、激しい暴風が吹きまくるので、私たちが助かる最後の望みも今や絶たれようとしていた。

21 だれも長いこと食事をとらなかったが、そのときパウロが彼らの中に立って、こう言った。「皆さん。あなたがたは私の

忠告を聞き入れて、クレテを出帆しなかったら、こんな危害や損失をこうむらなくて済んだのです。

22 しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。

23 昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、

24 こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船

している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

25 ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりにすると、私は神によって信じています。

26 私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。」

27 十四日目の夜になって、私たちがアドリヤ海を漂っていると、真夜中ごろ、水夫たちは、どこかの陸地に近づいたように感じた。

28 水の深さを測ってみると、四十メートルほどであることがわかった。少し進んでまた測ると、三十メートルほどであった。

29 どこかで暗礁に乗り上げはしないかと心配して、ともから四つの錨を投げおろし、夜の明けるのを待った。

30 ところが、水夫たちは船から逃げ出そうとして、へさきから錨を降ろすように見せかけて、小舟を海に降ろしていたので、

- 31 パウロは百人隊長や兵士たちに、「あの人たちが船にとどまっていなければ、あなたがたも助かりません」と言った。
- 32 そこで兵士たちは、小舟の綱を断ち切って、そのまま流れ去るのに任せた。
- 33 ついに夜の明けかけたころ、パウロは、一同に食事をとることを勧めて、こう言った。「あなたがたは待ちに待って、きょうまで何も食べずに過ごして、十四日になります。」

34 ですから、私はあなたがたに、食事をとることを勧めます。これであなたがたは助かることになるのです。あなたがたの頭から髪一筋も失われることはありません。」

35 こう言って、彼はパンを取り、一同の前で神に感謝をささげてから、それを裂いて食べ始めた。

36 そこで一同も元気づけられ、みなが食事をとった。

37 船にいた私たちは全部で二百七十六人であった。

38 十分食べてから、彼らは麦を海に投げ捨てて、船を軽くした。

39 夜が明けると、どこの陸地かわからないが、砂浜のある入江が目に残ったので、できれば、そこに船を乗り入れようということになった。

40 錨を切って海に捨て、同時にかじ綱を解き、風に前の帆を上げて、砂浜に向かって進んで行った。

- 41 ところが、潮流の流れ合う浅瀬に乗り上げて、船を座礁させてしまった。へさはめり込んで動かなくなり、ともは激しい波に打たれて破れ始めた。
- 42 兵士たちは、囚人たちがだれも泳いで逃げないように、殺してしまおうと相談した。
- 43 しかし百人隊長は、パウロをあくまでも助けようと思って、その計画を押さえ、泳げる者がまず海に飛び込んで陸に上がるように、

44 それから残りの者は、板切れや、その他の、船にある物につかまって行くように命じた。こうして、彼らはみな、無事に陸に上がった。

1 こうして救われてから、私たちは、ここがマルタと呼ばれる島であることを知った。

説教

使徒の働き連講（73）

「髪一筋さえ失わない」

使徒の働き

27章11節-28章1節

竿代照夫牧師

主テキスト

あなたがたの頭から髪一筋も
失われることはありません。

(使徒の働き 27章34節)

前回までのおさらい

- ・パウロは囚人としてローマに送られた



前回までのおさらい

- ・船は大嵐に遭った
- ・危機の中で、パウロは「船長」のように人々を励ました

1. 陸地への接近(27~32節)

- ・陸地が近づく
- ・水夫たちの逃亡を止める



2. 上陸の準備(33~38節)

- ・パウロの勧め
- ・「朝食をしっかりとりましょう」



2. 上陸の準備 (33 ~ 38節)

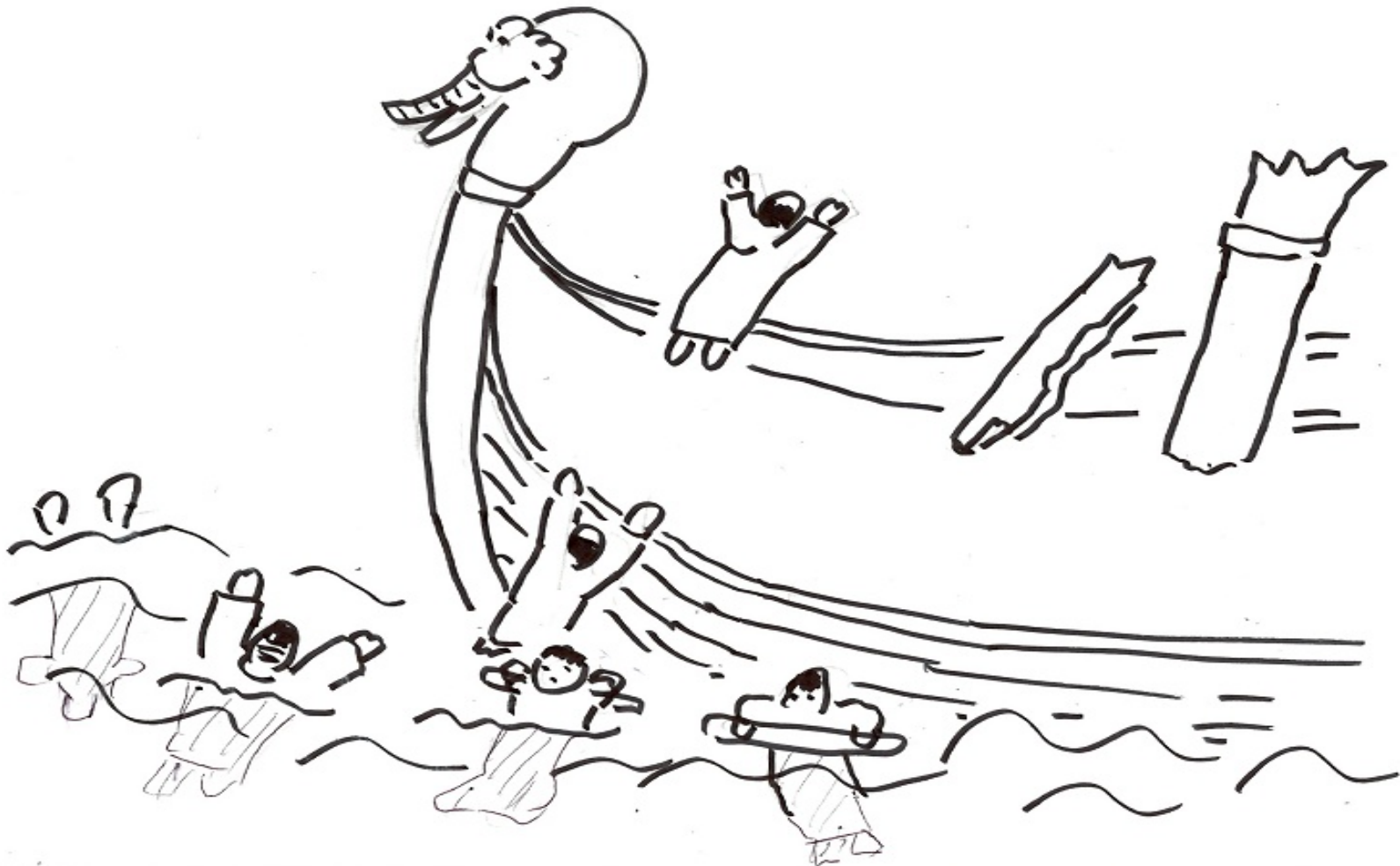
- ・パウロの約束

「髪一筋も失われない」

- ・上陸の準備

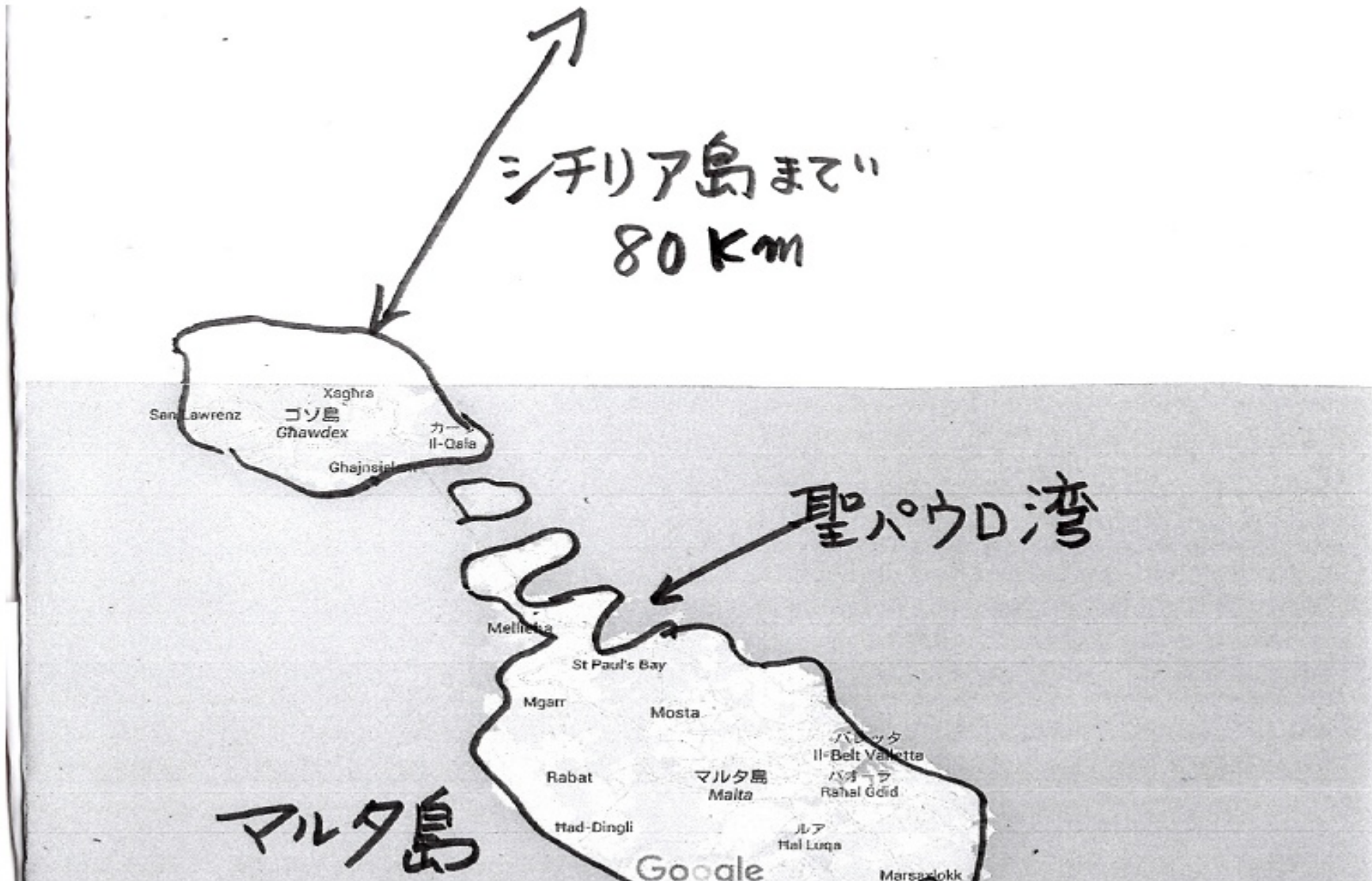
3. 陸地への漂着 (39 ~ 44節、28:1)

- ・船が座礁してしまう
- ・囚人殺害計画をやめさせる



3. 陸地への漂着 (39 ~ 44節、28:1)

- ・「マルタ島」であることを発見



おわりに

私たちの髪の毛一本まで数えて
守り給う主に信頼しよう

「雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません。また、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。だから恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。」

(マタイ10:29～31)